

平成 24 年度 エコアクション 21 環境活動レポート



(対象期間 平成 24 年 10 月～平成 25 年 9 月)

作成日 平成 25 年 12 月 20 日

竹村電子工業株式会社

目次

環境方針・行動方針

会社概要

実施体制・組織図

事業規模・環境負荷の状況

環境目標

環境活動計画

取組結果とその評価 1～3

次年度の取組内容

環境関連法規の遵守状況、違反・訴訟の有無

代表者による評価と見直し



環境方針

基本理念

サガ電子工業株式会社は、アンテナ製造業の事業活動において、常に環境への影響を配慮しながら業務を行うことが重要であると認識しています。環境の共生・調和、環境への取り組みを最重要課題として、自らに責任を持ち全社一丸となって自主的に事業活動に取り組みます。

行動方針

- ・ 事業活動において使用する電力や燃料等を節約し、エネルギーに頼らなくても快適な環境に保てるよう工夫して、二酸化炭素の排出量削減を推進します。
- ・ 821Bシリーズの生産において不良を低減させ、生産方式を改善し高効率の生産に取り組みます。
- ・ 事業所内から排出される廃棄物の削減に努めます。
- ・ 事務用品等のグリーン調達に努めます。
- ・ 環境関連法規制等を遵守すると共に、業務手順を整備して適切な処理に取り組みます。
- ・ 全製品において RoHS 指令に適合した材料の使用を推進します。
- ・ 以上の本方針を全社員が周知し環境経営システムの継続的改善に取り組みます。

作成：平成 18 年 10 月 12 日

施行：平成 18 年 11 月 01 日

改訂：平成 23 年 10 月 01 日

佐賀市開成二丁目 7-13

サガ電子工業株式会社

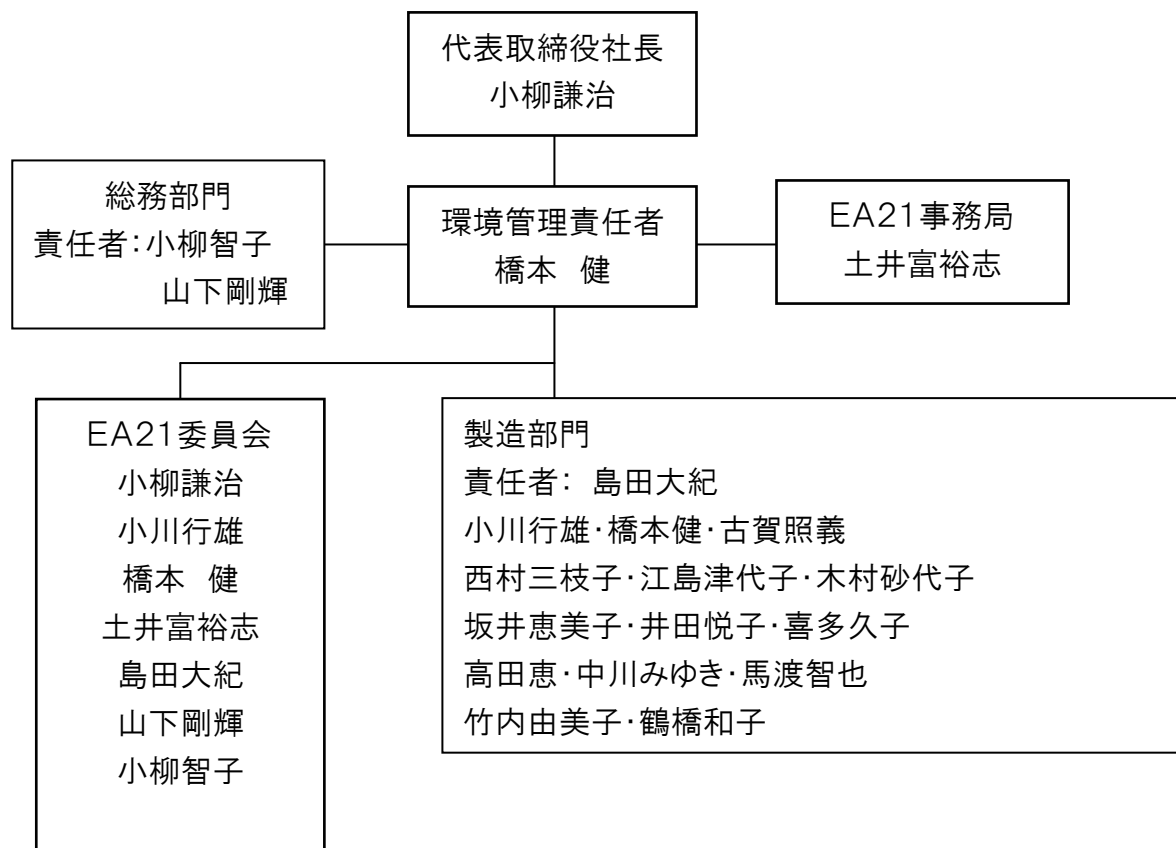
代表取締役社長 **小柳 謙治**

会社概要

- 会社名 サガ電子工業株式会社 SAGA DENSHI KOGYO CO. LTD.
- 代表者 代表取締役社長 小柳 謙治
- 本社所在地 佐賀市久保和泉町下和泉 1958-4
- 環境管理責任者 橋本 健
- EA21 事務局 土井富 裕志
- 連絡先
TEL 0952-37-8805
FAX 0952-37-6334
E-mail info@sagant.co.jp
- 設立年月日 昭和49年4月10日
- 売上高 128,648千円 (H23.10.1~H24.9.30)
- 資本金 10,000千円
- 主要取引銀行 みずほ銀行佐賀支店、佐賀銀行神野町支店、
日本政策金融公庫佐賀支店など
- 従業員数 22名 (パート/臨時含む) (2013年12月現在)
- ブランド名 サガントアンテナ SAGANT、アローラインアンテナ
Arrow Line Antenna
- 事業内容 各種無線通信用アンテナ製造・販売
・移動体通信用・業務用無線・アマチュア無線・放送中継用
・無線LAN用・特定小電力用・RFID用・FM送信用 など

実施体制

組織図



	役割・責任
代表者	全体統括、環境方針の設定、環境への取組を実施する為の資源の準備
環境管理責任者	全体を把握し、環境経営システムを構築・運用し、その状況を社長へ報告する
EA21委員会	3ヶ月に一度EA会議を開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する
EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理
総務部門	電力・ガス・車燃料・水消費量の管理、記録類の作成
製造部門	廃棄物の排出量管理
全従業員	環境方針への理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

事業規模

活動規模	単位	H22年	H23年	H24年
売上高	百万円	157	187	129
従業員	人	18	20	22
床面積	m ²	240	240	715

環境負荷の状況

環境への負荷		単位	H22年	H23年	H24年	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	10581	11032	11748	
	一般廃棄物	ダンボール	t	1	0.5	0.67
		燃えるゴミ	t	0	0.3	0.3
② 廃棄物排出量及び		最終処分量	t			
廃棄物最終処分量	産業廃棄物	廃油	t	0	0.063	0.04
		廃プラ	t	0	0.02	0.03
		最終処分量	t			
③-1 総排水量	公共用水域	m ³	0	0	0	
	下水道	m ³	99	104	160	
③-2 水使用量	上水	m ³	99	104	45	
	地下水	m ³	0	0	115	
④ 化学物質使用量	ラッカーシンナー	L	4	1.3	0	
⑤ エネルギー使用量	購入電力（新エネルギーを除く）	MJ	240,825	221,794	208,278	
	化石燃料	MJ	17175	36182	9387	
	新エネルギー	MJ	0	0	0	
	その他	MJ	0	0	0	
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	4.02	4.394	4.22	
	循環資源使用量	t	0	0	0	
⑦ サイト内で循環的利用を	利用された物質量	t	0	0	0	
行っている物質等	水の利用量	m ³	0	0	0	
⑧ 総製品生産量 または総商品販売量	製品生産量等	t				
	環境負荷低減に資する製品等	t	2.52	4.14	2.35	
	容器包装使用量	t	0.4	0.68	0.14	

二酸化炭素排出係数は、九州電力株式会社 平成23年度の0.525t-co₂/kWhを適用。

環境目標

二酸化炭素削減目標値は、23年度実績量を23年度排出係数で再計算し、14192kg-co2を基準にしている。

環境目標		単位	基準値	H.24年度	H.25年度	H.26年度
1	二酸化炭素排出量の削減 (3年間で5%削減)	kg-CO ₂	14192	13956以下	13724以下	13496以下
2	産業廃棄物排出量の削減 (3年間で3%削減)	kg	120 H22年度	118以下	117以下	116以下
3	水使用量の削減 (127.5以下を維持する)	m ³	127.5 H21年度	127.5以下	127.5以下	127.5以下
4	化学物質使用量の削減	ℓ	4	3ℓ以下	3ℓ以下	3ℓ以下
5	グリーン対象商品の使用推進	%		60%以上	70%以上	80%以上
6	製品のRoHS適合化	%		100%	100%	100%

備考：二酸化炭素排出量は九州電力株式会社 平成23年度の排出係数0.525t-CO2/kWhを適用。

二酸化炭素・産業廃棄物排出量は平成22年を基準として目標値を算出。

総排水量は平成22年度より平成21年度の値を基準に維持活動とする。

参考：過去3年間の環境負荷実績

項目	単位	H. 21年度	H.22年度	H. 23年度
1. 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	17,244	10,581	11,032
2. 産業廃棄物量	kg	700	120	20.35
3. 総排水量	m ³	127	99	160
4. グリーン対象商品の使用推進	%		26.3%	71%

環境活動計画

	活動内容
二酸化炭素排出量の削減	・ 室内の設定温度（夏 28 冬 20）を決め、実行する
	・ 業務に支障のない範囲内での照明の消灯を行う
	・ 半田コテのプリヒーターは、こまめに消す
	・ 冬は防寒着を着用し、暖房を節約する
	・ エコドライブの推進
産業廃棄物量の削減	・ 分別回収を行い、再資源化する
	・ 廃棄物はマニフェストにより処理する
	・ 821Bシリーズの不良率の低減
	・ 文書の電子化・両面印刷や裏紙の使用などによりペーパーレス化
	・ 段ボール・新聞紙・雑誌等を古紙回収として再生利用へ
水使用量の削減	・ 不要な水の使用を抑え、節水を呼び掛ける
グリーン対象商品の購入	・ 事務用品購入の際にグリーン対象商品を優先して購入する
化学物質使用量の削減	・ 購入量・保管量・使用量の適正な管理を行う
製品の RoHS 適合化	・ 平成 23 年度より新たに購入する材料を RoHS 指令に適合させる

取組結果とその評価

平成24年度 環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価 (1/3)

購入電力の削減		
平成23年度 電力合計 22,563 kWh	実績	21868 kWh
	評価	夏の空調を必要とする季節では電力が増加したが、年間を通して前年度比-3%購入電力を抑えることが出来た。
活動内容		10月~9月
・室内の設定温度(夏28 冬20)を決め、実行する		○
・業務に支障のない範囲内での照明の消灯を行う		○
・半田コテのプリヒーターは、こまめに消す		○
・冬は防寒着を着用し、暖房を節約する		○
・エコドライブの推進		○

平成24年度 環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価 (2/3)

廃棄物排出量の削減		
平成23年度 廃棄物量合計 20.35kg	実績	34.08 kg
	評価	引っ越しでの不要物を処分した為、前年度比で13.73kgと、増加してしまった。
活動内容		10月～9月
・分別回収を行い、再資源化する		○
・廃棄物はマニフェストにより処理する		○
・文書の電子化・両面印刷や裏紙の使用などによりペーパーレス化		○
・段ボール・新聞紙・雑誌等を古紙回収として再生利用へ		○

821Bシリーズの不良率の低減		
平成23年度 821B不良率 月平均 0.1%以下	実績	月平均 0.054 %
	評価	生産数の減少もあったが、不良率は抑えることができた。
活動内容		10月～9月
・821Bシリーズの不良率の低減		○

平成24年度 環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価 (3/3)

水使用量の削減		
目標値 127.5 m ³ 以下	実績	160 m ³
	評価	緑化の為に水まきで目標値を超えてしまった。 排水を利用した散水システムに移行したので次年度に期待する。
・不要な水の使用を抑え、節水を呼び掛ける		×

グリーン対象商品の購入		
目標値 50%以上	実績	73%
	評価	目標を達成することが出来たので、次年度についてもグリーン対象商品の購入に努めていく。
・事務用品購入の際にグリーン対象商品を優先して購入する		○

化学物質使用量の削減		
・購入量・保管量・使用量の適正な管理を行う(トルエン)	使用量	0 L
	保管量	0 L (平成23年度7月より、エコラッカーシンナー導入)

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスの環境活動		
・製品のRoHS適合化 目標値 100%	実績	100%
	評価	100%を達成することが出来た。
・平成23年度より新たに購入する材料をRoHS指令に適合させる		○

次年度の取組内容

平成 24 年度 環境活動計画

	活動内容
二酸化炭素排出量の削減	・室内の設定温度（夏 28 冬 20）を決め、実行する
	・業務に支障のない範囲内での照明の消灯を行う
	・半田コテのプリヒーターは、こまめに消す
	・冬は防寒着を着用し、暖房を節約する
	・エコドライブの推進
産業廃棄物量の削減	・分別回収を行い、再資源化する
	・廃棄物はマニフェストにより処理する
	・821Bシリーズの不良率の低減
	・文書の電子化・両面印刷や裏紙の使用などによりペーパーレス化
	・段ボール・新聞紙・雑誌等を古紙回収として再生利用へ
水使用量の削減	・不要な水の使用を抑え、節水を呼び掛ける
グリーン対象商品の購入	・事務用品購入の際にグリーン対象商品を優先して購入する
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスの環境活動	・省資源型製品の設計・開発

備考： 化学物質使用量の削減項目は PRTR 法対象物質を取り扱わないことから、項目から除外とした。

環境関連法規の遵守状況、違反・訴訟の有無

法規制名称	適用対象 施設、設備、 作業等	番号	適用条項	関連条例による規制	主管 部門	点検頻度・実施時期
廃棄物処理法 (廃棄物の処理及び 清掃に関する法律)	産業廃棄物 1.廃プラ 2.廃油	1-1	保管基準	・飛散の防止対策を講じること ・保管する廃棄物の種類を明記	製造	1回/年
		1-2	管理票交付 管理票の保管機関 管理票の報告	・管理票の記載事項：廃棄物の種類、荷姿、最終処分を行う所在地など	総務	1回/年
		1-3		・管理票写しの保管：5年間保存	総務	1回/年
		1-4		・管理票交付等状況報告を県にする	総務	1回/年
		1-5	委託基準	・収集運搬業者及び処分業者との書面による委託契約	総務	1回/年
		1-6		・委託契約書の保管：5年間保存	総務	1回/年
消防法	工場全体	2-1	消防法 (第17条、17条3の3、17条3の4)	・消防用設備等を定期的に点検し、その結果を消防長または消防署長に報告する義務	総務	次回点検年月日 平成26年3月

違反、訴訟の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。

又、関係当局よりの違反の通告もありません。

自主管理した結果の中でも問題ありませんでした。

代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

代表取締役社長 小柳 謙治

全体の取組の評価としては、PDCサイクルが機能し、円滑に行動できていると思われる。電力使用においても、前年度においても、さらにその前年度と比較しても抑えられている。今年度においてははまだ体験したことのない気候であった。夏場においては記録的な酷暑であったにもかかわらず、その前年度に対して電気使用量を少なくできたのも、土壁、木造の建物にした効果だと考えている。

見直す点としては、急場しのぎで準備した、窓エアコンの使用も将来において水クーラーの設備に入れ替える方向で進めて行きたいが、設備投資が嵩む為、当面、窓エアコンの使用は続けて行くこととなる。

これまで売り上げを牽引してきた821Bも落ち着き出す為、今後新たなニーズに対しての生産する製品の不良率低減を設定しなければならない。